

◎大川という文化を考える

# 素材の知識を持つことで、 家具がもっと楽しくなる。

木材、プラスチック、金属。家具を構成する素材は様々ですが、  
木工の町大川ではやはり木材が中心となります。

似たよう見えても材質が違えばそれはまったく違う家具。

素材の事を知れば、より家具の深みを知ることができます。

## 100%自然がつくり出す素材「木」。



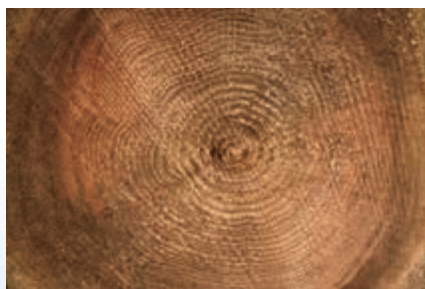
自然素材というと何か特別なもののように感じる方がいらっしゃいますが、大昔から使われている素材で、実は最もありふれた素材なのです。昔から人の暮らしの中にあつたので、やはり人の肌に心地よい素材といえるのかもしれない。天然木をそのまま切り出したものを無垢材と呼びます。

同じ木目を持つ木は2つとないので、その家具だけが持つふくよかな表情がそれぞれの家具でお楽しみいただけます。

また木本来の表情や肌触りもたいへん魅力的で、お手入れやメンテナンスをしてあげることによって味わい深い経年変化が生まれます。

タモ、オーク、チーク、ウォールナットなど代表的ですが、それぞれ風合いも肌触りも異なり、実際に素材に触れて選んでいただくと良いと思います。

タモは深くはっきりした木目の美しさを持った、経年変化を楽しむことができる上質で丈夫な木材です。



オークは斑(ふ)と呼ばれる、木目とは別に走る筋があるのが特徴。ヨーロッパでは古くから高級木材として家具はもちろん幅広く使用されてきました。

チークは油分を多く含む東南アジアが原産の木材です。長く使うと深みを持った綺麗な飴色になることから北欧の家具に多く使われている木材でもあります。





素材の知識を持つことで、  
家具がもっと楽しくなる。



最近人気の高いウォールナットは、なんといっ  
ても赤い木目が特徴。世界的に高級材として  
扱われており、工芸品や高級家具の材料とし  
て用いられています。

これらはほとんど海外から輸入された木材で  
すが、国土の7割を森林に覆われた日本の木  
材も大変魅力的です。「つよくて柔らかい」、  
いっけん相反するかのような性質をもつのが  
杉や桧です。ところがスギなどは、含水率が高  
い材で十分に乾燥させないと反ったり縮むう  
え強度も高まらないという欠点もあります。

そのうえ乾燥機で高温短時間で人工乾燥さ  
せた材は、細胞が破壊されて強度が劣化して  
いることが少なくないのです。乾燥技術は非  
常に難しいのです。

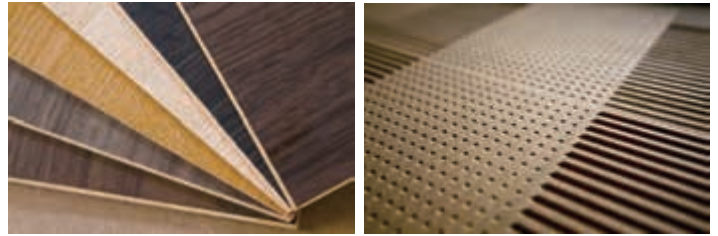
大川は家具の集積地であり、同じエリアに木  
材を供給する事業者と家具製造業者がいる  
ため信頼関係が最も重視されます。つまり木  
材の事を知り尽くした家具職人がいつもすぐ  
となりにいるようなもの。そのため「乾燥材  
だったらなんでもよい」と売り込む業者、大川  
で長年は存在することはできないのです。つ

まり輸入材であれ、国産材であれ、大川では  
質の高い木材が、しかも適正価格で扱われて  
いると言ってよいでしょう。

家具職人はどこよりも良い木材を手に入れた  
いと思っています。材木会社は正当に評価し  
てくれる職人に材木を渡したいと考えていま  
す。こうした、木材を扱う会社同士が競争し合  
うからこそ生まれたシステムが、大川に良い  
材料を集め、消費者に質の高い家具を送り届  
けられるようになっているのです。







## 暮らしを豊かにする「天然木ツキ板化粧合板」。

無垢の材料を用いたものは木目を揃えるのが困難で価格も驚くほど高いものになりかねません。また、長い年月をかけて複雑に年輪がからみあった木は、木目が美しくても繊維が一樣でない場合が多く、割れたり曲がったりして家具などにはなかなか利用できません。そこで、その美しい木材を薄く削って台板に張り付け、銘木の表面積を数十倍に広げる事を考案してできたのが「天然木突板化粧合板」です。

ツキ板・天然木化粧合板の日本での歴史は意外と古く、昭和20年頃から使われていたようで、木工職人がにかわで貼っていたそうです。

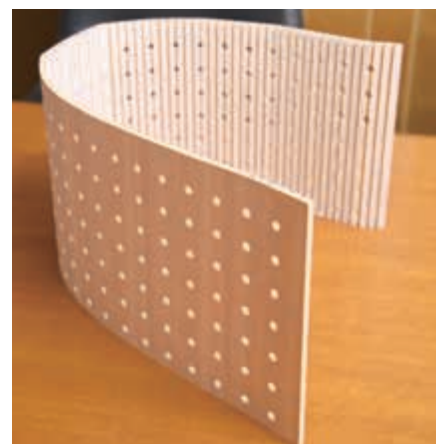
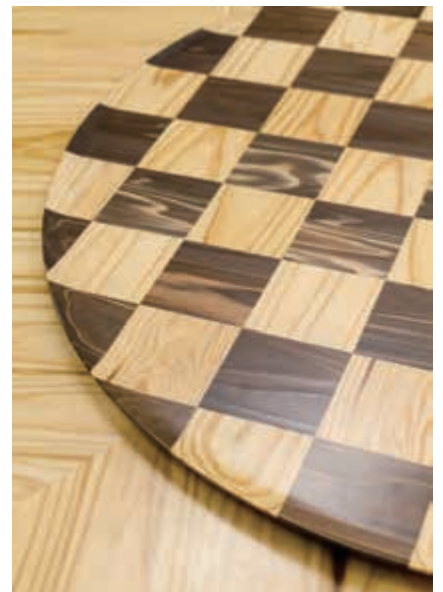
天然木化粧合板は家具や壁材として使われることが多く、あたかも無垢材で作られたかのような家具や木のぬくもりを感じることもできる住み心地の良い住空間を作り出すこ



とができます。

現在は最近では、「突板仕上げ」と見分けがつかないような「化粧シート仕上げ」等も多く供給されています。耐傷性や耐摩耗性に優れているもの、床暖房に対応したもの、洗面やトイレなどの水まわりにも適するタイプなども揃っています。テクスチャや光沢などの好み、メンテナンス性など「突板仕上げ」と「化粧シート仕上げ」を比較検討し、それぞれのメリットデメリットを理解した上で実際に見て触れて選ぶことが大切です。

木目や色合い、質感は、インテリアの印象に大きく影響します。大川であれば、いくつものメーカーを短時間で見てまわる事が容易です。職人から直接話を聞けるかもしれません。最近はネットで家具を選ぶ人も増えましたが、できれば特有の素材感や表情、手触りなどを確認するようにしたいものです。





## 素材を守り引き立てる名脇役「塗装」。

木材は、紫外線や雨風による風化、カビや菌による腐食、そしてシロアリなどの害虫による食害などの影響を受けやすい素材です。

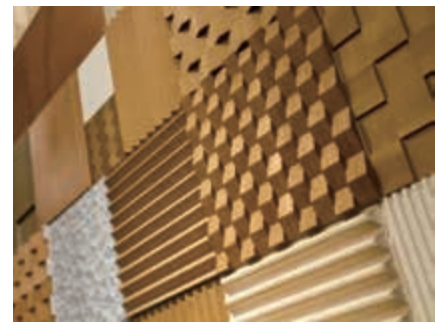
そんな木材を劣化から守るためには、適切なお手入れが必要になってきます。その方法の一つが「塗装」なのです。

木材塗装の基本工程は、つぎに示すとおり、素地調整・着色・目止め・中塗り・補色・上塗り・みがき仕上げの各工程からなっています。平面的組織が材面に現われ、木理の美をもつ貴重な材料です。したがって、木材の着色は天然にそなわった木材固有の色を生かしながら、これらをさらに美しく補色するのが原則となります。

しかしながら、近年、製品のデザイン意図にしたがって、一定の色調に仕上げる着色が塗装工程上重要となってきています。

木材の塗装に限ったことではありませんが、塗装を上手に行なうには、塗装の各工程をじゅうぶんに理解しておくことが非常に大切です。そのため美しく仕上げるためにはやはり職人技を必要とします。

塗料にもたくさんの種類があります。たとえば植物性の天然オイルを家具に染み込ませる塗装方法です。ウレタンやワックスの仕上げが木の表面をコーティングすることであるのに対して、オイル仕上げは木にオイルを染み込ませる塗装方法なので、木の素材感が伝



わる触り心地が楽しめます。

大川は全国的にも珍しい家具専門の塗料メーカーと職人が集まっている町です。

木材から仕上げまで、大川にはすべての職人が集まっています。ひとつの家具から多くの職人の息吹が感じられるのも大川ならではのことといえます。

